

昔、(注¹) 仏弟子どもの、道を行くに、農夫二人して田を作る。一人は若し、一人は老いたり。若き農夫、にはかに倒れて死にぬ。仏弟子等、あさましと見るほどに、この老いたる農夫、見だにもやらで、なほ田を作り立てり。仏弟子等、「いかに、その男の死ぬるをば見ぬか。家はいづくにあるぞ。親などにも告げよかし」と言ひければ、「この死ぬる男は、わが子なり。家は、あの見ゆる家なり」と言ひければ、仏弟子等、いよいよあさみて、「**父こそあらめ、母あるらむ**」とて告げたりければ、母も(注²) 芋といふものうみて、さわげるけしきもなかりければ、仏弟子、あさましさにゆゑを問ふに、「ひととせ、仏の法説き給ひしに、この身はむなしきものぞとのたまひしかば、**ありとてもありと思ふべからず**、なしとてもなしとさわぎまどふべからず」とこそ申し侍りけれ。あやしの

農夫、(注³) 空寂を知れり。

(注)

- 1 仏弟子 || 釈迦如来の弟子
- 2 苧といふものうみて || 麻と言うものを糸に紡いで
- 3 空寂 || 分別・執着・煩惱を除去した静かな心の境地

昔、仏の弟子たちが、道を歩いていたところ、農夫が二人して田を耕している。一人は若く、一人は老いていた。若い農夫が、突然倒れて死んだ。仏の弟子たちは、驚いたことだと見ていると、この老いた農夫は、「死んだ若い農夫を」見ることさえもしないで、そのまま田を耕し続けた。仏弟子たちは、「どういうことだ、（お前は）その男が死んだのを見ないのか。（死んだ男の）家はどこにあるのか。（その男の）親などにも（彼が死んだことを）知らせてやれよ。」と言ったところ、「この死んだ男は、私の息子だ。家は、あそこに見える家である。」と言ったので、仏の弟子たちは、いよいよあきれはてて、「父はそれでよいかもしれ**ないが、息子が死んだことを知らない母がいるだろう。**」と言って、（その家に行つて、母親に）知らせてやったところ、母も麻というものをつむいで、動揺した様子もなかったので、仏弟子たちは、驚き入つてそのわけを訊くと、「ある年、仏が仏法をお説きになつたとき、『（現世の）この身はむなしなものだ』と仰つたので、**（今日）生きていても（明日も）生きていられると思ふべきではない、**この世にいないとしてもいないと騒ぎ迷ふべきではない。」卑しい農夫が、空寂を知っている（のだからまして高貴な人は、諸法が空しいという事をお知りにならなければならない。）

